

整理番号	44-24	事務事業名	(芸術文化推進事業) 市民総合文化祭事業		作成部署	生涯学習部 社会教育課	電話	内線889
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	山内平一郎	課長職名	可児正樹	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	S51	根拠法令等	北広島市教育関係団体補助金等交付規則					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	昭和51年度から、市民による実行委員会組織の構築により、市直営で実施していた市民総合文化祭を、実行委員会への市交付金・交付事業として開始した。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化をはぐくむまち	(第4章)
	節	芸術と文化	(第4節)
	施策	芸術文化の創造と発信	(第2施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	市民総合文化祭参加団体及び市民	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	市内文化団体、個人並びに各地区文化祭実行委員会との緊密な連携のもとに市民総合文化祭を開催し、文化活動を通じて情操豊かな文化都市の実現に貢献することを目的とする。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	【北広島市民総合文化祭実行委員会の活動】 北広島市民総合文化祭の開催 平成16年度 開催日:10月31日(日)~11月3日(水) / 会場:北広島市芸術文化ホール
		17年度	同上 平成17年度(予定) 開催日:11月3日(木)~11月6日(日) / 会場:北広島市芸術文化ホール

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	225	213	205	205
	合計	225	213	205	205
人件費 (概算)	人数(年間)	0.002	0.002	0.002	0.002
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	18	18	18	18
総事業費 +		243	231	223	223

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	展示参加数(人)	85	66	70	70
	展示点数(点)	288	120	130	130
	舞台発表数(件)	69	16	17	17
	舞台出演者数(人)	189	216	250	250
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	事業参加者総数(人)	2,351	2,622	2,700	2,700
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	事業参加者1人あたりのコスト	¥103	¥88	¥83	¥83
	(総事業費 / 事業参加者総数)				

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	市民の芸術文化作品発表の場であることから、質・量ともにより充実させていくことが課題。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市民で構成される市民総合文化祭実行委員会との連携により、市民の主体性が増すなど、市民と行政の協働の観点からも妥当と考える。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	実行委員会は市民で構成され、市民主導はもとより、事業参加に際して多くの市民に門戸を広げている意味でも交付は妥当と考える。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	より多くの市民に対し文化に触れ合う機会を創出させていくとともに、作品制作主体者のほとんどが市民によるものであることから適切と考える。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	文化の発表機会にどれだけ多くの市民が参加したかにより判断した。	質の高い芸術文化作品の発表をはじめ、北広島としての独自性の創出、幅広い年代層の参加など、充実を図る必要がある。
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	市民に対する文化のふれあいを度合いとして算出した効率指標から考慮すると比較的廉価であると考え。	より多くの市民を(人間的・年代層的等の見地から)参加させる手法を講じていくことでより効率性が高まる。

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	質の高い芸術文化作品の発表をはじめ、北広島としての独自性の創出、幅広い年代層の参加、文化の活動領域の多様化に対応するため、あらゆる手段を検討していく必要がある。 また、市民総合文化祭の位置づけについて、市の最高位の文化祭として位置づけるなど、地区文化祭を含めた体系化を検討していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	市民総合文化祭の位置づけや地区文化祭を含めた体系化については、実行委員会での議論をとおしてを明確にしていくなど、具体的行動を起こしていく。

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	44-24
------	-------

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	市民総合文化祭事業交付金		
交付先の名称及び代表者名	北広島市民総合文化祭実行委員会 実行委員長 金田孝次	設立年	昭和48年
構成員(団体)数	72団体ほか参加市民 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	市内文化団体、個人並びに各地区文化祭実行委員会との緊密な連携のもとに市民総合文化祭を開催し、文化活動を通じて北広島市の情操豊かな文化都市の実現に貢献することを目的とする。		
交付先団体等の活動内容	北広島市民総合文化祭の開催		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	
収 入	本市補助・交付金の額(A)	225	213	205	
	北海道補助金	500	0	0	
	負担金	486	221	140	
	事業収入	0	28	0	
	祝賀会会費	210	0	-	
	繰越金	0	0	0	
	収 入 合 計(B)	1,421	462	345	
支 出	報償費	668	63	30	
	消耗品費	101	261	55	
	印刷製本費	230	61	150	
	役務費	23	29	50	
	使用料及び賃借料	152	48	50	
	旅費	9	0	10	
	食糧費	238	0	0	
	支 出 合 計(C)	1,421	462	345	
繰越金	収入(B) - 支出(C)	0	0	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		16 %	46 %	59 %	
補助・交付金の対象経費(項目)		食糧費を除く全ての経費(事業費)	全ての経費(事業費)	全ての経費(事業費)	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		1,183	462	345	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		19 %	46 %	59 %	
補助・交付金の算出根拠	定額(平成15年度:225千円、平成16年度:213千円、平成17年度:205千円)				